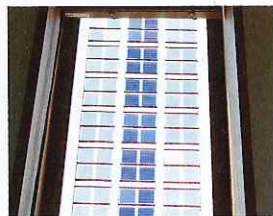




ベッドルームの壁に浮かび上がる有機EL照明。器具がないため、スタイリッシュな空間を演出。



館長の城戸淳二
卓越研究教授



有機太陽電池を使った発電する窓。採光を確保しながら1年中発電できる。

SMART
MIRAI
HOUSE

山形大学 実証工房 スマート未来ハウス

(アルカディア一丁目)



このまちに、世界に誇れる技術がある
キラッと光る技術と人

「コミュニケーションウォール」の説明をする佐野教授。240インチの大画面により、遠隔地と映像をつなぎ臨場感あふれるコミュニケーションをとることも可能だという。

最先端の技術がここに集結 20年後の快適な暮らしとは？

柔らかな光に包まれた空間、壁一面を覆う大画面に映し出される映像、心地よい睡眠を提供する寝室……。20年後、私たちが住むのはどんな家だろうか。そんな未来の家の姿を垣間見せてくれるのが昨年10月15日にオープンした「スマート未来ハウス」だ。

ここは、山形大学が世界に誇る有機EL、有機太陽電池、有機トランジスタなどの研究の成果を生活にどう役立て、活かしていくかを実証していく場だ。有機エレクトロニクスはもちろん、建築、照明、デザインなどさまざまな分野から最前線の研究者たちが参画し、20年後の私たちの暮らし方をイメージして作り上げられている。

家の中に入ると、全体が穏やかで柔らかな光に包まれていることに気付く。これは建物内のいたるところにあふれる有機ELの照明のためだ。従来の照明と比べ、「人に優しい柔らかな光」で、さらに心地良い明るさ、デザインなどを考えながら取り付けられている。

例えばベッドルームには、新開発の埋め込み型の有機EL照明が採用され、タブレット端末を使って照明の色、強さなどを自在に組み合わせ設定することが可能。さらにベッドには、眠りながら呼吸などを計ることができ

るシステムも。睡眠の状態を調べ、心地よい照明をさぐりながら、よりやすらげる癒しの空間を目指している。

進化し続ける未来の家

こんな20年後の未来の暮らしを先取りして見せてくれる「スマート未来ハウス」。ここでは、私たちの未来の姿を想像し、それにあった快適な生活はどんなものなのかを提案し、実験していく。「これからは、従来のように技術を積み上げて結果を出していくだけではなく、まず目指すべきゴールを想像し、そのために必要な技術は何なのかを考え、知恵を結集していくことが大事」と語るのは山形大学の佐野健志教授。

そして、そのゴールともいうべき未来の姿を明確にするには私たち市民の声も必要だ。佐野教授は「ここに中高生を含むあらゆる層の人たちを集め、見てもらうことで、さまざまな意見を取り入れながら、ワクワクするような家づくりをしていく予定です」と話してくれた。

最先端の研究、研究者の情熱、そして市民の思いを合わせ、皆で一体となってここ米沢から未来の家を作っていけたらどんなに素晴らしいことだろう。

なお、スマート未来ハウスは今後一般見学開始予定です。

感動、驚き！あの「ナセBA」を大探検！

新文化複合施設「ナセBA」を市内に住む瀧湊さん一家が訪れました。オープン前の探検にみんなドキドキ。階段から上を見上げると、5階まで吹き抜けになった壁面書庫が現れます。「うわあ、すごい！」「大きなあ！」家族からは感動と驚きの声が上がリ、笑顔が溢れました。(6月13日撮影)



表紙
解説